

テーマ 伝えよう感謝の心  
広めよう喜びの和

立教179年

4月29日

# 全教一斉ひのきしんデー



第524号  
発行所

天理教北海道教務支庁  
札幌市中央区南8条西11丁目  
電話011(561)-1148  
FAX 011(561)-1190  
E-mail:kyouku-h@vega.ocn.ne.jp  
印刷  
三浦印刷株式会社



- ※ 全国の会場は、天理時報に3週に分けて掲載しておりますので、ご参照ください。
- ※ 遠くにいる信者さんにも、前もって参加カードを送付し、最寄りの会場をご案内するなど、呼びかけましょう。
- ※ 又、会場一覧は、天理教ホームページ(<http://www.tenrikyo.or.jp/yoboku>)でもご覧いただけます。



## 立教179年3月28日 教祖130年祭学生おぢばがえり大会開催!

北海道教区学生会より 115名参加!

天理教を紹介します



### 天理教基礎講座 TENRIKYO BASICS COURSE

どなたでも  
お聞きいただけます

天理教はいつどこで始まったのか、どんな教えで、どんな活動をしているのかなど、この講座で天理教の基本的なことが一通りわかりいただけます。

#### 《北海道会場の御案内》

- 4月10日(日) 13時30分 教務支庁  
※本部会場講師 宮内 泰夫 先生
- 5月1日(日) 13時30分 小樽天理教館
- 5月29日(日) 13時30分 網走市エコーセンター2000

… 受講者の声 …  
いつしか「たすけあい」の気持ち  
が薄れていたのではないかと、  
感じることができました。  
(30代 信者 男性)  
すごく丁寧で思いやりある場所  
だと感じました。  
(30代 未信者 男性)

北海道教区のホームページ <<http://www.tenrikyo-hk.com/>> 教区報がご覧頂けます。

# 西垣教区長再任 新体制決まる!!

(3月支部長会議教区長あいさつより)

一昨日、昨日と春の大嵐が吹き荒れまして、北海道内ばかりか、空路もズタズタであります。その中、今日こうして皆様が札幌までお越しくだされて、誠にありがとうございます。

あちこちで、春の兆しが見えてきまして、おちばでは、教祖殿前の梅の花が見事に咲いていましたし、やかた前のしだれ桜も、もうすぐだなあと楽しみに



思いました。

支部長の皆様には、教祖百三十年祭に向かう三年千日の御用のお立場から、支部内をまとめて頂き、牽引役を務めて頂き、ご奮闘くださいました。誠にありがとうございます。

この月で任期が終わる方、終わらない方と分かれませんが、お礼を申しあげます。私も、来季も続投せよ、とい

うことですので、よろしくお願いいたします。

振り返ると、この期は、教祖百三十年祭を務め終えて、気持ち的にもホッとしたところではありますが、これから、一よふぼくとして、教会長として、心して努めなければならないと思っています。

先般、2月29日、表統領先生がかなめ会の席で、これからの指針というものをお示し下さいました。細かいお話しではありませんでしたが、これからも、真柱様を芯として、我々立場ある教会長が、しっかりと務めて頂きたい、と。3つの角目を発表下さいました。

一つ目が、にをいがけ、おたすけの定着。

二つ目が、道の将来を担う、人材の育成。

三つ目が、人材を減らすことのないよう、丹精をしよう。というお話でした。

これは私たちも、常日頃から心してはいますが、改めて、もう一度気合を入れなおして、思い直して、自分の中でも、教祖百四十年祭、百五十年祭へ突き進み、若い人が育つよう、歩ん

で行きたいと存じますので、よろしく願いいたします。

## 【各部・各会】

- 総務部長 高橋 政嗣(俱知安)
- 教務部長 桐谷 厚平(陽光)
- 布教部長 美田 伸一(晃糸井)
- 災救隊隊長 奥村 尚人(六華)
- 福祉厚生部長 伊藤 逸雄(北湧)
- 文化広報部長 加地 道喜(比布)
- 輸送部長 笹田 道継(胆振)
- 教化育成部長 高橋 太志(祝梅)
- 庶務部長・集会員 岡田 雅人(道北)
- 会計部長 松下 義之(北旭)
- 布教の家北海道寮寮長 甲谷 久(苦錦)
- 婦人会主任 山本 亨子(統北)
- 青年会委員長 北村 貴久(羽幌)
- 少年会団長 久米田忠彦(北盛)
- 学生担当委員会委員長 笹田 弘行(千代ヶ岱)
- しらゆき会委員長 廣岡 洋子(美唄)
- 学生会委員長 井谷 歩矢(神羽)

## 布教の家寮生門出 たくさんのお出合いに 感謝し卒業!



くれ、またつながっていくことでしょう。北海道の皆様には厚くお礼申し上げます。

3月14日、立教百七十八年度の北海道布教の家入寮者の3名が、無事に一年間、布教一途の生活を務め終え、退寮式を迎えた。3名の感慨深い卒業の挨拶を載せたい。

### ●武永 明德(津軽大、六華)

私は、札幌出身で、それなりに頑張って歩きました。成果というところあまりありませんが、思い出深いのが、ある時基礎講座にお誘いする方が出来、その人を待っていました。受付時間に間に合わず、来たものの受講できませんでした。私の心配りが足りなかつたと、反省をいたしました。貴重な体験ができたことをお礼致します。有難うございました。

### ●青木 豊美(洲本大、統北)

最年長でしたが、振り返るといろんな日があり、思い出に残る一年となりました。私なりに出来ることを一つ一つやって、退寮の日を迎えることができ、嬉しく思います。一年間ありがとうございました。

### ●北嶋 亮馬(高松大教会)

一年間、どうもありがとうございました。札幌は、大都市で、家の軒数も多く、我々3名が歩き回っても、また百カ所もの教会があるのに、それでも布教が行き届かない、と思いましたが、私はやり残した感じがありませんが、この後の後輩が頑張つて

教理随想 (七)

心すみきらせる道

木岡 昭

先月、東京在住のある教会長さんと話し合いをさせて頂く機会を得た。彼は教会長であると共に現役の弁護士でもある。彼は東京では弁護士会の理事も務める有能な人である。

彼と会話をしていると情熱ある人柄がひしひしと伝わってきた。海千山千の事案を能力を駆使して処理している彼ではあるが、その信仰心は本当に純粋なものを感じた。

彼は「私達お互いは人々と共生するかぎり、自分の心をすみきらす努力は必然である。おみちの信仰は心すみきらす道である。」と、青年のように熱弁をふるわれた。私は純真な赤い心にひきつけられたものである。

おみちの信仰は、単に神を拝して御利益を待つ信仰ではない。ましてやこの世は自分とか自分の家族だけのものではないのだから、本来の信仰は自分の心を働かせていかねばならないのだ。云いかえれば、各自の自由と与えられた心をすみきらせていく信仰であり、その成長次第に見えてくる陽気ぐらしへの道である。

では心すみきらすとはどうゆうことか。それは我欲中心の「ほこりの心」を払うことであろう。教祖はほこり心をはらう道として「みかぐらうた」の中に度々教えられているのである。まず次のお言葉がある。

「むりな願いはしてくれなひとすじ心になりてこい」

むりな願ひとは、自分の欲心を土台とすることであり、ひとすじ心とは純粋に神意を求める心であろう。そして次々と信仰に対する心のあり方を次のように教えられている。

「むごい心をうちわすれやさしき心になりてこい」

「なんぼ信心したとても心得ちがいはならんぞへ」

「欲があるならやめてくれ神の受取りでけんから」

「欲にきりない泥水や心すみきれ極楽や」

「なんぎするの心から我身うらみであるほどに」

こうみてくると、今の世界の繁栄は心のすみきりを頓挫させているのかもしれない。

では、どうすれば心はすみきらせられるのだろうか。結論か

ら云々と自分の力だけでは変えられない。よい考えをもつてい人でも金を見たら変るように、人の心は損得で動き曲っていく。やはり自分の心でも神様に変えて頂く以外にはない。

人の心は、神様の思召しを実践する事によって必ずすんでくるのである。そして、やがて心がすんでくれれば本来の喜びで満ち溢れるであろう。

布教部

雪をも解かす 熱意発散



教区布教部(部長・北村廣久)は、3月1日から2日にかけて支部布教部長研修会を教務支庁にて開催した。

全道的に天候が荒れたことで欠席する支部もあったが、16支部の布教部長に出席頂いた。研

修会の内容としては、三年千日活動を振り返って各支部の反省と今後の歩み方の報告を主とした。

3年間での支部全体のよふほくの勇みは、各地各会場で「よふほく決起の集い」を受講した者、受講出来なかつた者に差が生じたと思う。しかし、参加呼びかけなどの活動を通して、支部内のつながりが深まったと。

(特に、教会長路傍講演)への丹精が必要である支部が大半でありました。(広大な支部の状況を把握した上で。)

次いで、4月29日の「全教一斉ひのきしんデー」は時期的に、まだ寒い地域もあります。教祖百三十年祭後の最初の全教行事ですので、声掛けを丹念に行つて、大きな動きとなるよう、お願い致します、と。

翌日は、札幌市内も降雪があり歩道も狭い中ではありましたが、8時より神名流しをさせて頂き解散となりました。

参加人数・20名

百四十年祭へ向かつてスタートを切った今から、布教部としての活動を進めるにあたって、人材育成の重要性、そして何よりも支部内の教会長の行事参加

教会がおたすけの場に

保護司連盟が勧める

「自立準備ホーム」

現在、道内のように多く信者さんには、保護司活動に取り組みられている方が約50名おり、その名簿も揃えている現状ですが、平成25年から法務省では、刑を終えて社会復帰する方の自立を支援する上から「自立準備ホーム」の開設を広めようとしています。これは、出所しても親兄弟から見放されて、住む場所が定まらないと仕事に就けない、社会復帰が難しいことから3カ月間と限って、教会でお世話をすると「おたすけ」になります。最近では、全国の43ヶ所のホームのうち、天理教が37、38ヶ所を占めており、法人格をもった天理教の教会なら取り組めるという話です。そこで、左記の研修会に保護司のみならず、更生保護活動に関心のある方に受講をお勧め致します。

日時・5月30、31日  
会場・教務支庁  
参加希望者は、教務支庁、書記まで。

